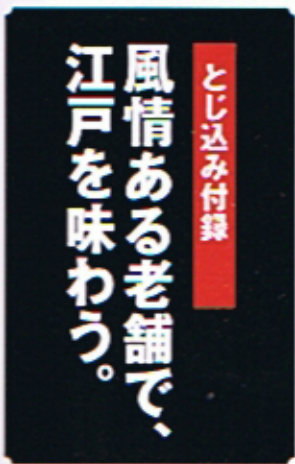
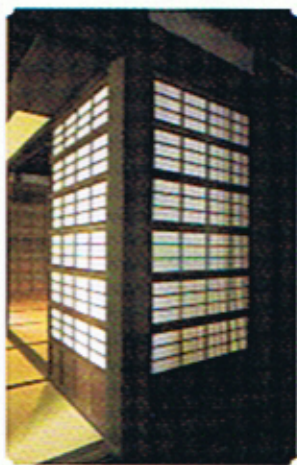


pen

with New Attitude

2007年6月15日発行 隔月刊誌 創刊11号 (通巻220号)
1997年3月10日 創刊号発行

6/15
2007 No.200
特別定価 **550**
yen



いきという文化が育んだ、 江戸デザイン学。

創刊200号記念・完全保存版



今宵も一杯

18

一杯目 文・友田晶子

「ブルゴーニュ黄金の丘」が生んだ、伯爵ゆかりの高貴なる赤。

まことに勝手ながら、そろそろ私の誕生日である。いい歳をして誕生日もなにもあったものではないが、自分の生まれ年のヴィンテージ・ワインを開ける楽しみを味わえる日だから、やっぱり誕生日はうれしいのである。

忘れられないのは、5年ほど前に飲んだブルゴーニュの巨匠、コント・ジョルジュ・ド・ヴォギエ工家の「ミュジニー1963年」だ。あ、歳はれた。名家、特級畑、40年近い熟成という3拍子揃った極上の飲み頃ブルゴーニュワイン。グラスに注げば、深い琥珀色をたたえたガーネットカラー。ハバナシガーのような強い香りと、薔薇の香水のようにエレガントな香りが絡まる官能的な芳香。シルクのようにキメ細やかなタンニンと、ドライアプリコットのような凝縮した果実味と旨み、個性的なようにエキゾチックな長い長い余韻……。まさに至宝であった。

このミュジニーは、特級に格付けされている畑の名産だが、隣村の同じ特級畑であるル・シャンベルタンやロマネ・コンティ兄弟たちの王様の個性と違い、優美でたおやかな風格を持つクイーン的な個性が特徴となる。また、このミュジニー畑のほとんどを所有するヴォギエ家は、何を隠そう伯爵家。王や女王や伯爵がたくさん登場するシニエクスピア作品みたいなワイン地区が、マニアが泣いて喜ぶ、ブルゴーニュ黄金の丘なのである。

年代ものならば、ヒヤッホーである。パースデー・ヴィンテージでなくとも、また特級畑でなくとも、ヴォギエ伯爵のワインは飲める。ミュジニー畑のあるシャンポール・ミュジニー村で造られた村名ワイン「シャンポール・ミュジニー」がそう。

もちろん、金額も手の届く範囲。ちよつとした記念日ワインとしてはいい線いっていると思う。クイーンの片鱗も十分にある。いや、クイーンの親戚筋のプリンセスといったところか。伯爵家の嫁だから、早めに買って自宅で熟成させても、品と知性のある、結構いい女に育ちますよ。

シャンポール・ミュジニー
ブルミエ・クリュ
CHAMBOLLE-MUSIGNY
PREMIER CRU

原産国 フランス

近年では当たり年とされる1999年のボトル。ヴォギエのブルミエ・クリュは、1級格付けワインでありながら、使われているぶどうのすべてがグラン・クリュ(特級畑)のもの。そのままミュジニーを名乗れる格だ。



「シャンポール・ミュジニー・ブルミエ・クリュ」
が生まれる村

CHAMBOLLE MUSIGNY

シャンポール・ミュジニー

同様の村とは明確に異なった、石灰質を多く含んだ土壌が、醸成でエレガントな味わいの「女性的ブルゴーニュ」を生み出す。特級畑は2つある。

